

神田神保町～御茶ノ水—日本最大の古書・楽器の集積街—

1. 神田古書店街について
2. 神田古書店街成立の歴史
3. 御茶ノ水の音楽系専門店の集積
4. おまけ（神田小川町のスポーツ店街）

1. 神田古書店街について

1-1 位置

神田古書店街の場所について、具体的にこの地域とこの地域と限定することはできない。中心となっているのは千代田区神田神保町1～3丁目地区であるが、その周囲の猿楽町や西神田、小川町にも古本屋は多く立地している。中心地は白山通りと靖国通りの交差点、地下鉄神保町駅のある境界である。

1-2 古書店街の規模

神田神保町1～3丁目に限定するだけでも古書店が143軒、新書店が33軒立地している(2007年6月現在)。扱うジャンルは文学、歴史、宗教、サブカルチャーから、中には骨董品を扱う店もあるなど多岐に渡る。このことから、作家の故司馬遼太郎氏が本を書く時には、神田から本が消えたという伝説もあるほど、多くの作家がこのまちを利用している。



図1: おおよその古書店街と楽器店街エリア
(出典: Google Map に加筆)

2. 神田古書店街について

2-1 江戸時代—神保町の名前の由来

江戸時代、駿河台・小川町・神保町・西神田一帯は一部の幕府直轄地を除くほかは武家地で占められていたため、本屋をはじめ、店は一軒もなかった。地名もなく、神保町という地名の成立は明治時代以降であるが、その名前は当時この地域に屋敷を構えていた旗本の神保長治に由来するといわれている。その証拠に、天保御江戸大絵図には、神保家の前の通りにジンホウコウチ、ウラジンホウコウチという名が記されている(図2)。そこから明治時代に表神保町、裏神保町の名が付けられ、さらに現在の神保町1～3丁目となった。



図2: 神保家の名が記された道
(出典: 『日本地図選集 寛永慶応江戸切絵繪圖全』より抜粋)

2-2 明治時代—本のまちの形成

明治時代に入ると、江戸の武家地の大部分は政府の手に渡った。これらの屋敷は京都から移ってきた公卿や新政府の高官の住居等に利用されることになり、やがて居住者や希望者に払い下げ始められる。しかし土地には地租がかけられていたため、屋敷や土地を手放す人が多かった。特に神田地区では錦町、神保町、猿楽町のあたりに空き家や空地が多くみられ、次第にそこに学校や塾を新設しようという動きが高まっていく。その先駆けとして、後に東大となる「開成所」という研究施設ができ、さらに周辺に学習院を始めとした国立・私立の大学が開設されていき、学問の中心地となっていった。

学者や学生が集まれば本屋も集積し始める。こちらの草分けは「有史閣」(後の有斐閣社)で、続いて明治10年代には、小川町や神保町に中西屋、東洋館、三省堂、富山房などが現れてきた。記録では、明治20年には神田地区の書店組合員は15人であったが、明治39年には104人にまで急増している。そのような中、古書店を最初に考案し

たのは中西屋を開いた早矢仕有的(丸善の創設者)であった。一度読んだ洋書を買って買戻す場所として洋書の古本を扱う店があれば貧乏な学生が喜ぶのではないかと考え、洋書専門の古書店である中西屋を、学生の多い学校街の神田に開くことにしたのだという。まさにこの時期が古書店街の原型をなした時代だったと言える。このころから書店の多くは通りの北側に並んでいるが、これは直射日光が店内に入り、書物が劣化するのを防ぐため、現在も神田の古書店は通りの北側に多く並んでいる。

2-3 大正時代—交通網の発達～関東大震災による区画整理

大正時代に入ると、日清・日露戦争の軍需景気によって交通網の整備やそれに伴う区画整理などインフラの整備が進んだ。神保町界限では、白山通りと靖国通りに市電が開通し、それによって付近の学校街も発展・整備が進んだ。中央大学・明治大学・日本大学・専修大学などが立地し、それらを目指す学生達がさらに神田へと集まり、神保町界限はさらに本屋の数も増え、発展した。

そのような中、1923(大正 12)年、関東大震災が発生した。大量の書物を持っていた神田の書店の多くは倒壊し、加えて大火が出たために神田の書店街は倒壊を免れたものがあったとしてもほとんど焼失し、学校街も焼け野原となってしまった。そのような状況下でも、震災で書物が失われたことで逆に書物への需要が増加したため、古書店街はバラック小屋を建てて対応するなどしぶとくも素早い復活をみせた。

また、この震災では国が震災復興計画を立て、それによって道路の拡張・新設、コンクリート造建造物への建替えなどが行われ、市街地はその様相を一変させた。神保町 1, 2 丁目周辺地区の土地区画整理図は図 3 に示す通りである。

2-4 昭和から平成へ—戦後復興～再開発の波

東京の街を焼き尽くした東京大空襲において、神田神保町の古書店街は奇跡的に焼失を免れたため、終戦後すぐに復興することができた。戦後復興から高度経済成長期へ入り、古書店街も再び戦前のような賑わいを取り戻してくると、いよいよ神保町地域では書店街が飽和状態になってきた。そこで古くからの大手書店の中に、高層化する店が出始めた。昭和 47 年には小宮山書店が地上 7 階・地下 1 階建ての店舗を建設し、昭和 53 年には地上 9 階建ての神田古書センタービルが開店した。また三省堂書店は昭和 59 年に地上 8 階・地下 1 階建ての新店舗を開店させ、神田の古書店街は再びその様相を変えつつあった。

昭和 50 年代後半になると、官庁街に近いこともあって神保町地域へも再開発の圧力が増加し始める。これまでは書店店主の対抗により、大きな再開発はなかったが、2003 年について千代田区の再開発事業の一環である神保町 1 丁目南部地区第 1 種市街地再開発事業「ジェイシティ東京」が完成した。「東京パークタワー」、「神保町三井ビルディング」、「神保町 101 ビル」の 3 棟で構成され、周囲の中小ビル群と比較して高層なビルが出現している(図 4)。



図 3: 神保町 1, 2 丁目周辺地区の土地区画整理図
(黒い線が区画整理によって新たに追加された道路)
(出典: 『神田まちなみ沿革図集』)



図 4: 再開発前後の対象地区の比較
(出典: 土地活用モデル大賞 HP)

3. 御茶ノ水の音楽系専門店集積

3-1 概要

JR 御茶ノ水駅の御茶ノ水橋口から駿河台下の交差点へ向かう明大通り沿いには、楽器店が軒を連ねている。以下に、御茶ノ水駅周辺の主な楽器店についてその歴史をまとめた。

■①：下倉楽器店

創業は 1937 年、神田駿河台に弦楽器、管楽器の専門店として始めた。現在では駿河台を本店に、大宮、八王子にも出店し、弦楽器専門店やギター専門店を開くなど広く店舗を展開している。

■②：石橋楽器店

創業は 1938 年、神田駿河台に楽器古物店を開いたのが始まりという。神保町の古書店街といい、安価な古物は貧乏な学生には歓迎されたのかもしれない。現在では日本中の主要都市に店舗を展開し、オンラインショップも開設している。中心商品はデジタル音楽機器、ギターなどで、中古品も扱う。

■③：谷口楽器店

1937 年の創業以来神田駿河台(明大通り沿い)に店を構える。アコーディオンの扱いが有名な楽器店だったが、現在ではレフトハンド(左利き)ギターをほぼ専門に扱っている店として有名である。在庫はエレキギター、アコースティックギターを合わせて 400 本を越すという。

■④：黒沢楽器店（本社新宿）

創業は 1967 年。ギター工場を設立し、メーカーとしても一応の成功を得たが、その後、ギター製造業に限界を感じた創業者黒澤常三郎が小売業に転換し、楽器の街の御茶ノ水を中心に東京都内に店舗展開を行い、それが大成功した。また当時は少なかった楽器の輸入業に力を注いだ。現在は、米国の有名アコースティックギターブランドのマーティンギター社の日本総輸入代理店として有名である。取扱商品はバイオリンなどの弦楽器からギター、ベース、電子ピアノ、管楽器など様々である。現在ではベース専門店、管楽器専門店など複数の専門店を営んでおり、中古ギターも取り扱うほかレッスンスクールも開講している。



図 5: 御茶ノ水駅前の楽器店の並び
(出典:Yahoo!トラベル HP)

3-2 なぜ学期店の集積が起こったのか

簡潔に言えばその理由は“なんとなく集まった”というのが一般的であるようだ。ただ、想像するに、この地域は元々大学が多かった⇒ロックバンドを結成する学生や軽音サークルも多かった⇒楽器や音楽書籍への需要が生まれた⇒楽器店が集まってきた、という流れなのではないだろうか。黒沢楽器店のように、ビートルズが流行った高度経済成長期頃に開店して店舗を拡大させた店もあるので、その説も間違いではないといえる。

しかし先述した下倉楽器店や石橋楽器店などの歴史の古い店舗をみると、戦前、特に 1930 年代後半に創業した店ばかりであることが分かった。また、御茶ノ水の楽器店街はバンド系が中心で、即ち 1960～70 年代に創業した店が中心なのだろうと思っていたが、意外にも弦楽器や管楽器を扱う店も多いなど、ジャンルを問わず様々な楽器店が集積していることが分かった。考えられる理由としては、日本で最も歴史の古いプロのオーケストラが東京フィルハーモニーオーケストラで、結成が 1911 年であること、また NHK 交響楽団は 1926 年の結成で、東京大学管弦楽団は 1920 年の発足であることから、1930 年代は特に東京においてオーケストラなど西洋音楽が浸透してきた頃だったのかもしれないという点が挙げられる。

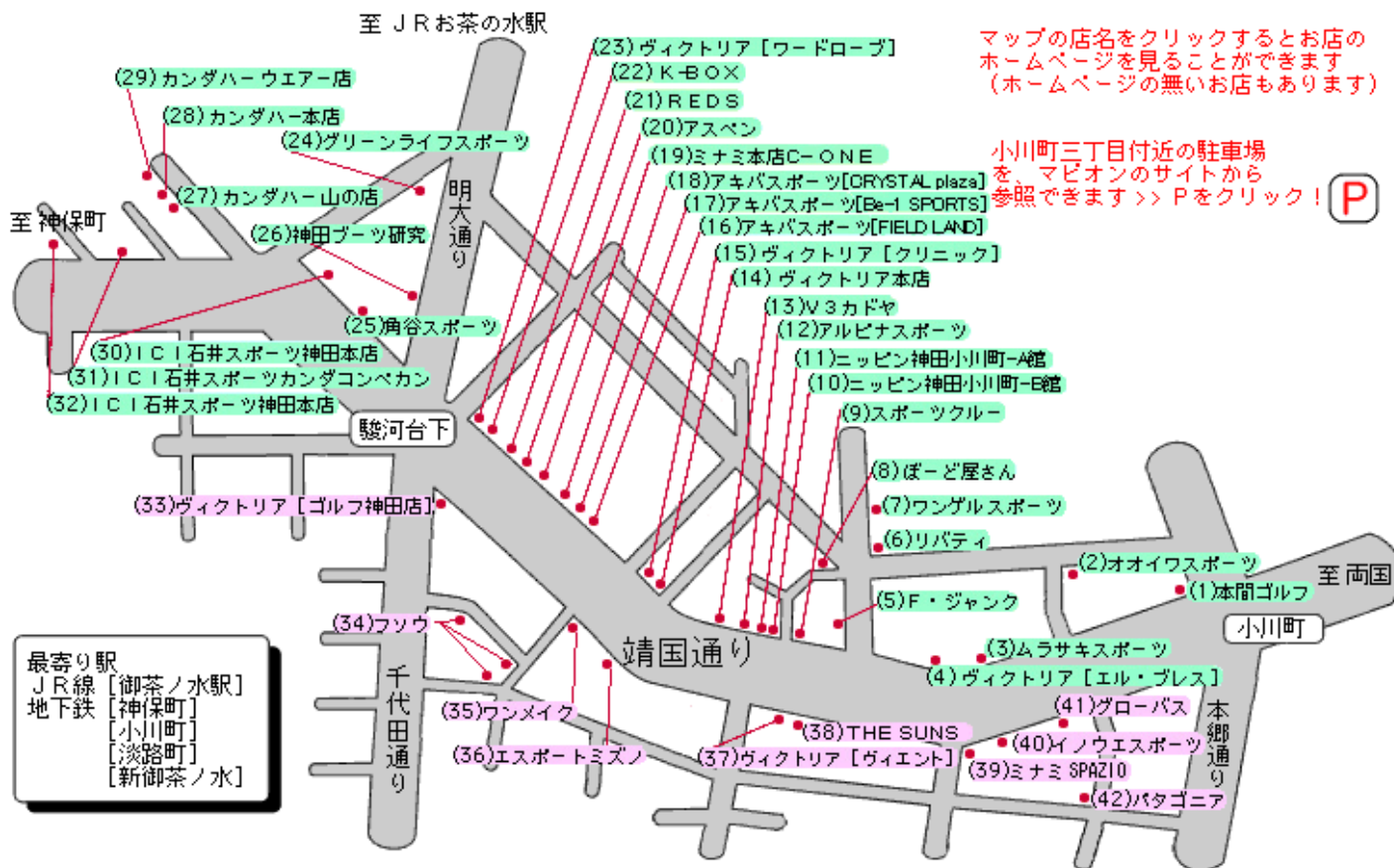
参考文献

- 1) KANDA ルネッサンス編集部(代表: 亀井紀人)(1996)『神田まちなみ沿革図集』、久保工務店
- 2) 人文社編集部 編(1966)『日本地図選集 寛永慶応江戸切絵繪圖全』、人文社
- 3) 脇村義太郎(1979)『東西書肆街考』、岩波書店
- 4) 地活用モデル大賞「優秀賞：ジェイシティ東京」(<http://www.bank.tochi.mlit.go.jp/data/html/1526/index.html>)
- 5) Yahoo!トラベル「御茶ノ水楽器街」(<http://domestic.travel.yahoo.co.jp/bin/tifdetail?no=jtba1400500>)

4. おまけ(神田小川町のスポーツ店街)

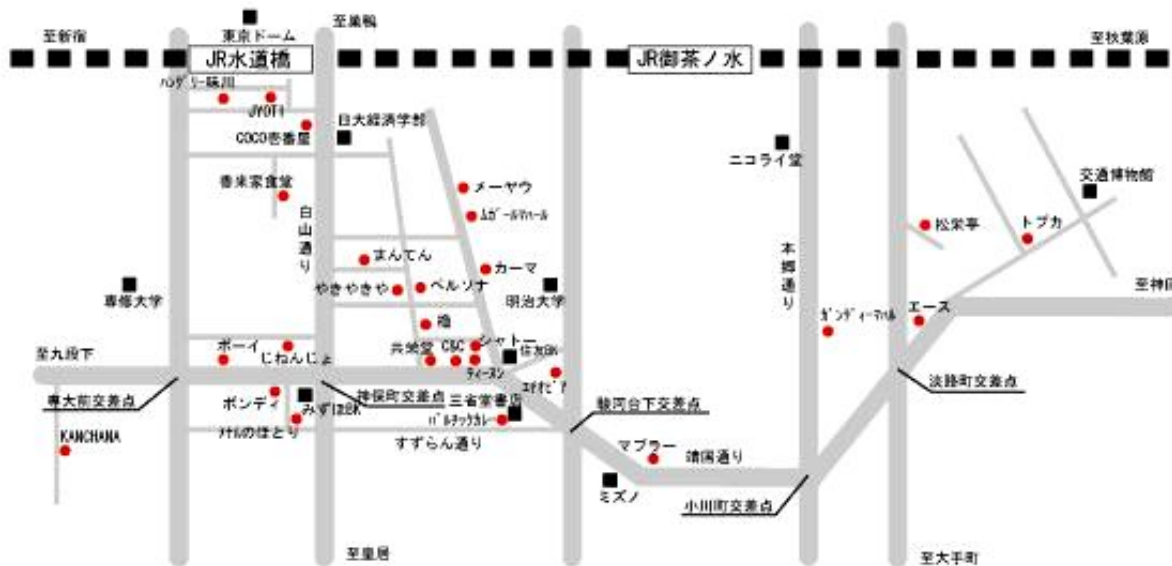
神田スポーツ店連絡協議会加盟店一覧

参考 <http://www.sports-kanda.com/map.html>



☆昼休憩☆～昼食は古書店街で～

神保町といえばカレーだ！ということでカレー屋マップ



★レビューサイトお奨めのカレー屋★

①ボンディ ★★★★★

■場所：神田古書センター2階の、中野書店というマンガ専門の古本屋の中を奥に進んだところ(ホントです)
■営業時間：11:00～22:00 ■予算：昼 1500円

昭和48年操業の欧風カレーの元祖。店のウリは、やはりチーズカレー(¥1,350)。ただ、ライスの量に対してカレーの量が少なすぎるのが難点。

②ペルソナ ★★★★★

■場所：上記マップ参照
■営業時間： ■予算：昼 1500円

この店のコックは、ボンディで修行した後、独立したとか。カレーの味は自家のボンディより上かもしれない。ただライスがやわらかすぎたのが残念なので星3つ。

③共栄堂 ★★★★★

■場所：地下鉄神保町駅から東に靖国通り沿いすぐ。サンビルB1F(上記マップ参照)
■営業時間：11:00～22:00 ■予算：昼 1000円

1924(大正13)年創業の老舗。この店のカレーの最大の特徴は後味に苦味が残ること。嫌な苦味ではなく、かえって爽快感を感じる程度のもので、これがカレー全体の味を引き締めている。ビーフカレー(1200円)、ポークカレー(800円)などスタンダードメニューも揃うが、レビューイチ押しはタンカレー(1600円)。財布に余裕のある方はぜひ。

④カーマ ★★★★★

■場所：地下鉄神保町駅から明大方面へ徒歩5分(上記マップ参照)
■営業時間：11:30～15:00、17:30～20:00 ■予算：昼 850円

本格的なインドカレーの専門店。店内はそれほど広くはなく、カウンター席とテーブル席が3つ4つ位ある程度。クミン、コリアンダーなど14種類ものスパイスを使ったカレーだが、それが嫌味にならず、うまく共演している、という感じだとか。どちらかというスープ状のカレーだが、ライスと一緒に盛られて出てくる点は疑問。

⑤エチオピア ★★★★★

■場所：地下鉄神保町駅から靖国通りを東へ行き、駿河台下交差点で左折してすぐ(上記マップ参照)
■営業時間： ■予算：

インドカレーの店で、かつて横濱カレーミュージアムに出店していたほどの名店。カレーは注文してから調理するので出てくるまで15分ほどかかるが、味は独特の香ばしさが特徴のカレーで本当においしい。じゃがいもがカレーと別に出される。チキンカレー880円。店内が少々汚いのが難点。

⑥KANCHANA ★★★★★

■場所：地下鉄神保町駅から九段下方面へ。九段下から歩いた方が近い(上記マップ参照)
■営業時間： ■予算：850円

スリランカカレーの隠れた名店。この店のウリはなんといっても鶏肉。ランチにはサラダが付く。カレーはとにかく良い香りなのと、カレー自体の香ばしさが最高。さらに具に使われている鶏肉がカレー全体の味を1つも2つもグレードアップさせている。大変分かりづらい場所にあるが、このカレーは一度賞味されることをオススメしたい。文句なしの星5つ。

⑦松榮亭

■場所：地下鉄淡路町駅 A3 出口から徒歩 3 分（右図参照）。

■営業時間：11:00～14:00、16:30～19:00

1907(明治 40)年創業。カレーライス(730 円)は牛ロース肉と玉ねぎのみの、いたってシンプルなものだが味わいは深い。夏目漱石が愛したという洋風カキアゲも店の看板メニュー。ほかにはオムライスが 730 円など、お手ごろ値段も嬉しい。



★カレー以外のものが食べたい！という方に★

⑧【洋食】さぼうる 2

■場所：地下鉄神保町駅 A7 出口すぐ。

■営業時間：8:30～22:00LO（ミートソースなどの軽食類は 11:00～） 日、年末年始休

神保町の喫茶店といえば有名な「さぼうる」の 2 号店。ミートソース(サラダ付き 650 円)は山盛りで、コクはあるけれど甘すぎない点が良い。ほかにナポリタンもおすすめ。



⑨【中華】北京亭

■場所：地下鉄神保町駅 A4 出口徒歩 3 分。

■営業時間：11:30～15:00、17:00～22:30

神保町界隈のサラリーマンに熱い支持を得ている店。人気は中国の特性辛味噌を使った辣醬(ラオチー)麺(700 円)。他に炒飯(710 円)もおすすめ。安くて美味しい店としてこの店も神保町の定番である。隠れメニューにカレーもあるとか。



⑩【和食】天井いもや

■場所：地下鉄神保町駅 A4 出口徒歩 3 分。

■営業時間：11:00～16:00

「美味しいものを、安く、早く提供する」がこの店のモットー。店内は白木のカウンター席のみで、行列は必至。いもやは神保町に複数あり、神保町といえはいもやというくらい有名な店。てんぷら自体の味はエビをはじめ、からっと揚がっていて、たれはさっぱり系。メニューは天井(味噌汁付き 500 円)、えび天井(味噌汁付き 750 円)のみ。姉妹店に「とんかつ いもや」もあり、こちらも安くて美味しい店だったが、今年 9 月に閉店してしまったようだ。



参考文献

- 1) 奇跡のカレーライス (http://www.ky-factory.com/miracle_curryrice/index.htm)
- 2) たべあるき東京、昭文社
- 3) ザ・東京グルメ (2007 年 1 月) 交通新聞社 2007 年 1 月